

花と緑の情報をお届けします。

Green Sketch

グリーンスケッチ

夏号
NO. 20
2003



特集

● 緑と花のまちづくり
● 緑と花による地域づくり



花と緑のイベント情報 ……4

国営越後丘陵公園「サマーナイトプレゼンツ」、
新潟県立植物園「花と緑の教室」他



植物に親しむ ……5

育てて楽しい・収穫して楽しい「ハーブの寄せ植えづくり」を
ご紹介します。



にいがた夏の散歩道 ……7

県内の「オニバス」の見所をご紹介します。

●読者の広場 ●花と緑のお悩み相談室 ●緑花センター掲示板



財団
法人

新潟県都市緑花センター



にいがた「緑」の百年物語に参加しています。

緑と花による 地域づくり

近年、わたしたちの生活は便利になる一方で、都市化の進展によって緑が失われてきています。また、地球温暖化や身近な自然の減少など環境問題に対して、住民の関心は高まっています。そこで、高齢化社会や都市化により人のつながりが薄れてきている地域社会において、自然の再生を図り、美しい緑豊かなまちづくりを目指すには、住民一人一人の取り組みでどのようなものがあるのか考えてみたいと思います。

「緑と花による地域づくりの動き」

ここに紹介するのは、緑と花による地域づくりの全国的な動きについてです。

私たちの暮らす身近な空間に、緑や花がきれいに植えられ、手入れされていたら、地域の人の憩いの場所になると思います。

まちなかに地域の人たちの手で地域の庭をつくり、育てていく活動が始まっています。そして、地域で活動している団体のネットワークづくりが始まっています。

今年の2月に、コミュニティガーデン活動を支援・推進していく組織、コミュニティガーデン・ネットワークが設立され、その設立記念フォーラムでの「まちとみどりを再生するーコミュニティガーデン活動への

「わたがらの緑と花のまちづくり」

昨年の秋、財団法人新潟県都市緑花センター主催の「都市における緑の増進と自然の再生」を副題とした緑

花推進シンポジウムが開催され、これからの緑と花のまちづくりについて次のキーワードが出されました。
(シンポジウムの内容は、情報誌18号で紹介)

- 1. 緑と花で人の縁を結ぶ**
緑や花を通して高齢化社会を形成します。
- 2. 緑と花で地域活動を育む**
商店街活性化のイベントやまちづくりに緑や花を活用します。
- 3. 官民一体のパートナーシップ**
緑と花の地域活動は、地域での自立とともに様々な助成制度の活用による協力体制が必要です。
- 4. 緑の増進と自然の再生への取り組み**
緑を増進するには、ボランティア活動を支える地盤づくりと、地域を飛び越えた交流連携が必要です。
まちの緑文化の育成は、子供、大人、高齢者がそれぞれの視点で縁に関わり、人と緑、花、自然が共生する活動に繋げ、縁をつくるだけではなく、リサイクルなどを通し縁を活かしていく活動が必要です。
- 5. 地域の郷土愛**
これからは住民参画の時代であり、緑や花をツールとしたまちづくりは、地域の同意を得ながら積み上げていく継続性が必要です。
- 6. 学校教育と緑**
地域と学校が連携し、総合学習など実体験の場をつくる必要があります。

提言」より、コミュニティガーデンとその活動について紹介します。

「コミュニティガーデンとその活動」

コミュニティガーデンとは、簡単に説明すると「地域の庭」ということになります。

地域住民が主体となってまちなかの空き地や公園などに緑や花の空間をつくり、そこに人々が活用し、交流できる共有の場を意味しています。

もともとは、アメリカでコミュニティの安全確保・

健全化のためにビルやアパートの谷間にある僅かな空き地を耕し、庭や遊び場を作ったのが始まりだそうです。コミュニティガーデンは、緑や花の空間として自然に親しむだけでなく、子供たちが花や緑、昆虫などに触れたり、地域の人が自分の得意分野を活かして活動に参加する社会的な自己実現の場として、多くのことを体験する総合的な学習の場であると言えます。さらに、世代や職業などが異なる人々が集い、交流することにより新しい文化を創造する場など地域にとって大切な場所となります。

コミュニティガーデンにおける活動は、2つの要素をもっています。1つは、活動によって緑や花が植えられ、緑化が推進されることです。いま1つは、地域の人たちによる活動を通して、地域社会が再生されることにあります。この活動によって、地域に緑と潤い



▲購入した花苗や持ち寄った花が植えられています。

財団法人都市緑化基金のコミュニティガーデン全国展開事業に先駆けて、モデルとして取り組んでいる活動を紹介します。

コミュニティガーデンのモデル事例

をもたらししてくれます。
日本ではこれまで、花いっぱい運動などの緑化活動が盛んに行われていますが、コミュニティガーデン活動がこれらの活動と違う点は、地域の住民が主体となつて、庭をつくる過程（活動）を重視しているところにあるのです。
そして、さらにこの活動の支援や推進をはかるため、全国組織として財団法人都市緑化基金が主体となるコミュニティガーデン・ネットワークが設立されました。今後は、企業・行政等と協力関係を結び、会員相互による情報交換や講習会等による人材育成などを行っていく予定です。

みやざきコミュニティガーデン

宮前コミュニティガーデン実行委員会
(川崎市宮前区)



▲小学生花壇：自分達でプランから植栽まで行います。



▲植替え作業では子供達もお手伝いをします。



▲竹の子を焼いて食べようと皆が集まっています。



▲定期市が開かれ、野菜などの販売をしています。

既に地域づくりの活動を行っている会の人たちが中心となって立ち上がりました。
最初は、市民・まちづくりワークショップを開催して、ガーデンのイメージについて参加者が意見を出し合います。次に、まちを歩き、候補地探しとまちの中の緑地調査を行い、その結果をマップ化します。その中から候補地を選び、具体的に現地調査をします。場所

緑化を推進する際は、私たちの暮らしの中に緑がもたらしてくれる効用を重視してきました。今回の話題は、地域づくりの視点から捉えた緑と花の活用方法を提案しています。生き方や暮らし方が多様化する時代にあつて、わたしたちは希薄になった地域や人との結びつきを必要

「花と緑による地域づくり」

としているのかもしれない。その結びつきをきっかけとして、緑や花が非常に効果的なものであると感じます。コミュニティガーデンは地域の人達が誰でも参加でき、つくり、育て、守る共有の庭として、これからの緑化推進の新たな手法として可能性を感じます。

自分達でつくりあげたコミュニティガーデンは、地域の人にとつて、とても愛着のあるものになっていると感じます。

の決定後に、近隣住民の参加により、基本プランを作成します。以上のような流れでコミュニティガーデンの計画づくりが行われました。その後、土地所有者から許可をもらい、委員会の責任において管理することとなりました。計画から資金や材料の手配、現地での施工までみんなで意見をだし合い、知恵をしぼってつくりられています。
現在、ガーデンづくりは進行中です。ここでは、定期的に花植えイベント、野点などが企画開催され、地域の人が参加しやすい仕掛けをつくり、地域に開かれた活動を行っています。



▲樹木を植えた後：道路に沿って緑の線ができました。



▲樹木が植えられる前

なお、この2つの活動は、当財団が行っている緑花助成事業で県補助事業「YOU優花緑まちづくり事業」を活用して実施しています。

集落は、周辺を山に囲まれ自然豊かな環境ですが、道路だけが無機質なものとなっていました。そこで、集落を通る道路の改良工事の際に、道路沿いに樹木や花を植えて、集落内に潤いの空間を造りたいとの思いから、歩道の植樹を行政に要望しました。植栽樹の設置は行政側で行ってもらいましたが、樹木や花の購入から維持管理までは集落の人で行なうことを決定しました。

こちらの集落では、それぞれのご家庭でも花や緑が植

天池街路樹の会（十日町市）

—道路に潤いの空間づくり—

えられ、花や緑に対する関心が高いように思います。また、夏にバーベキュー大会を開いて楽しんでいたりとお話を伺い、地域の方々のつながりが感じられます。今後は、道路に面した空き地にも、集落の人が楽しめる休憩所をつくりたいとのことでした。

工事をきっかけに、樹木を植えようという地域の人たちの気持ちを形にして実現させたことは非常に素晴らしいことだと思います。これからも皆さんで力をあわせて立派な街路樹に成長させてほしいと思います。

●お知らせ

当財団の助成事業「まちなか緑花推進助成」は、平成15年度の受付を終了させていただきました。多数の申請をいただき、ありがとうございました。

よしやぶ川夢プラン推進委員会（柏崎市）

—生まれ変わる川—

地域を流れる「よしやぶ川」をテーマにした活動が行われています。

この活動は、よしやぶ川を昔ながらの地域に根ざした川に再生したいとの趣旨で、平成14年2月によしやぶ川夢プラン推進委員会が設立されました。この地域では、コミュニティの方による「よしやぶ川ふれあいウォーク」などが企画され、推進委員会を設立する以前からよしやぶ川に接する機会をつくっていました。

推進委員会では、雑草が繁茂し荒れていた川沿いに、桜や芝生、草花を植え、散歩道を整備し、地域住民の憩いの空間に生まれ変わらせることを目指し活動しています。

川沿いでは、平成14年から一部を耕し、花の種をまき、秋の開花時に地域の人達を集めてコンサートを開いています。

写真は、6月1日（日）に行われた活動の様態です。当日は台風の影響による雨の中、地域の方が130名

ほど集まり、桜の植樹、花苗の植栽、種まきなどが行われました。

地域の人達は、都市化により地域から遠ざかり荒れ果てた川を、身近な川に再生するため活動を行い、再び以前の川を取り戻しました。この活動には、多くの人達が

かわり、地域を自分達の手で変えていこうという熱意が伝わってきます。

1つの活動が、周辺の地域にも広がり、緑や花にあふれるまちになっていくのではないかと感じます。

▼樹木や花苗の植付け作業の様子です。



▲桜やサルビアなどが植えられ、川沿いの景色が変わりました。

「新潟県内で行なわれている花や緑の活動」

植物に 親しむに

ハーブの寄植ええづくり

緑花センターでは、県立植物園において様々な緑や花に関する教室を開催しています。

今回、昨年の7月21日に花と緑の教室で開催された「ハーブの寄植ええづくり」の内容をご紹介します。講師は、緑花センター花と緑のアドバイザーで古志の里ファーム代表の恩田吉和さんです。



ハーブとは育てて半分、楽しんで(利用して)半分です。今の時期はハーブがよく育つので、ポールプランターという小さな世界でも充分にハーブを楽しむことが出来ます。植えてからある程度大きくなるまで時間がかかりますが、上手に育てれば、お盆頃にはハーブティーや料理に使えます。また、日頃の手入れの剪定作業が同時に収穫にもなります。はさみをいれることで香りも発しますので、自然のアロマテラピー効果にもなります。

ハーブの種類ごとにいろいろな寄植えが楽しめます。

今回は、クッキングハーブや、ハーブティー、花を楽しめるものなど、ミックスして寄植えにしますが、ハーブには色々な種類がありますので、ハーブティーになるものだけを寄植えにしてみたり、花物だけの寄植え、料理に使うものだけを寄植えにして楽しむ方法もあります。

今回使用するハーブの解説と管理について

●ヘリオトロープ

花が咲くと大輪になり、紫色の花が咲きます。甘いバナナのような香りがします。

原産地は中南米で、日本には明治以降に入ってきました。

秋になると花も終わり、茶色っぽくなります。切り戻すと脇芽が伸びてその先に花をつける性質があるので、剪定を行いましょう。寒さに弱いので冬は室内にいれましょう。寒くても2~3℃確保できるところで越冬させます。防寒としてビニールの袋を鉢にかぶせて保温すると株の持ちが良くなります。戸外では、寒さで地上部は枯れてきますが根がしっかり生きていて芽を出すこともあります。寄植えの場合は、ヘリオトロープだけ10月下旬に引き抜いて、違う鉢で管理し、他の4種の苗は戸外で管理するとよいでしょう。



●レモンバーベナ

葉をさわってみるとレモンの強い香りがします。葉3枚でティーカップ1杯分のおいしいハーブティーをつくる事が出来ます。白い小さな花が咲きます。

チェリーセージと同じくらいの耐寒性があります。レモンバーベナは、草花ではなく樹木で、大きくなると1mにもなります。落葉樹ですので、寒くなってくると葉が茶色になり、葉が落ちます。



●スウィートバジル

料理に向くハーブの代表格です。夏の暑さの中でよく育つ植物です。トマトとバジルの風味はよくあいます。バジルにはいくつかの種類がありますが、その中でも口当たりの良いのが、スウィートバジルです。8月~10月いっぱい料理に楽しめます。11月の初めには、全部食べきってしまう設定で育ててください。



●イタリアンパセリ

大きく茂ると、サラダや料理に利用できます。

真中の部分から新しい芽が出てきて、外側に広がります。外側からちぎって利用して下さい。真夏の暑さよりは、涼しい時期、9~10月に生育が旺盛になります。耐寒性もありますが、イタリアンパセリは二年草で、次の年の春には茎を伸ばして、白い小さな花をつけます。花から実がたくさんつきますので、その種を育てて楽しむことも出来ます。



●バジルペーストの作り方

バジルの葉、松の実、粉チーズ、オリーブオイル、ニンニク、塩・コショウをミキサーでとろとろになるまで混ぜると緑色のソースになります。ナスの焼き物やトーストなどに付けたり、いっしょに焼くとおいしく召し上がれます。

ハーブの 利用法

ハーブの寄植えを つくってみよう

準備 するもの

- ハーブ類5種
 - ・ヘリオトロープ
 - ・チェリーセージ
 - ・レモンバーベナ
 - ・スイートバジル
 - ・イタリアンパセリ
- ボールプランター
- 培養土
- ゴロ土



①ゴロ土を敷く

水はけを良くする為にボールプランターの底に約2cmくらいゴロ土を敷きます。(ここでは赤玉土の大粒を使っています)



②培養土を入れる

ゴロ土が隠れるくらいに培養土を入れます。手で土を押さえて1cmくらいまでいれます。



ポットを引き抜いて、自分の好きな位置に苗を配置します。ここでは中心にバジルを置き、その回りに4種のハーブを配置しています。

ポットから抜いてみて土がガチガチに固まっていたら、根と土を軽くほぐしましょう。

③苗を配置する



④植付ける

配置が決まったら、外側の苗はなるべく、プランターの外に茎が出るように植付けます。中央の苗はまっすぐ伸びますが、大きくなると密になってくるので、空間をつくれます。培養土を入れて、手で隙間を埋めていきます。土はプランターの高さより3cmくらい下まで入れます。



⑤ラベルをつける

植え終わったら、苗にラベルを付けます。



管理10150

●置き場所

日当たりの良い場所に置きましょう。ただし、アスパルトやコンクリートの上に直におくのは避けます。地面から焼けてきまるので、どうしても場所がない場合は、ブロックや木などの台をおいて、直接熱が伝わらないようにしましょう。

●肥料

植付けた後、液肥を1000倍に薄めて水をあげるときになったらあげます。9月に入ってきたら追肥として、置肥として固形肥料を与えましょう。

●培養土

園芸店で販売されている有機質が混合されている培養土で充分です。

●水やり

置き場所にもよりますが、日当たりのよいところでは乾燥しやすいので、朝晩水をあげましょう。

●病害虫

アブラムシがよくつくことがあります。料理用ですので農薬は使いたくありません。もしついてしまったら、牛乳をスプレーにかけてみるとよいでしょう。ただし、牛乳を使うと、土に落ちた牛乳が腐ってナメクジが近づきやすくなるので注意が必要です。肥料ではチッソ成分が多い肥料を与えるとしてもアブラムシが多くなります。葉っぱが茂ってよいのですが、葉が柔らかくなり虫がつきやすくなるので、チッソ分を控えた肥料で管理すると虫がつきにくくなります。アブラムシは銀色の反射光を嫌うので、アルミホイルを下に敷き詰めると効果があります。

●その他

冬場でも、土が乾燥したら水やりをしましょう。3月の中旬になり、暖かくなってきたら液肥や、固形肥料を与えましょう。来年は苗が大きくなってきますので1つのプランターボールに2種類から3種類残し、別のプランターに植替えましょう。